

### 第3回 教育振興審議会議事録

20/10/23 19:00 生きいきプラザ

教育長挨拶

会長

奈良県明日香村での周遊バスでの体験をもとにあいさつ

前回会議録の承認

承認する。

協議内容

参事が児童・生徒数と学校の状況を資料により説明した。

- ・新しい資料により方向性が出てきた。
- ・子どもの人数がはっきりしており、この子どもたちに何をしてあげられるのかを考えながら、「実情はこうなんだ」と住民に知らせていく必要がある。
- ・学校を統合するにあたり、反発も予想されるが「統合によりこんないいこともある。」と子どもたちのためにみんなで考えていくには、いいチャンスである。
- ・親として子どもたちの数はいくらかわかっている。学校を統合することにより「こんないい教育ができる」とメリットを訴えていけばいいのでは。
- ・親として、どうすればいいのかわからない、どうしたらよいか指導してもらいたいという思いがある。
- ・学校統合により学校の運営費が変動するのではないか。浮いた経費を他の教育にまわすことができるのではないか。たとえば、学校統合により浮いた経費を通学費の補助にまわすこともできるのではないか。

会長

色をぬられたところが、再編成することにより複式学級が避けられるところなのかを確認する。

- ・通学距離を考えると各地区小学校は、2校程度ではないか。
- ・中学校は、各地区当面1校とするのか。
- ・小中一貫教育により人数が少ないデメリットを解消できるのか。

参事

中伊豆中・天城中については、当面、2クラスが継続する。土肥中学についても峠を越えてまで通学することはいかがかという意見があり、当面、各地区1校としたい。

- ・土肥地区は、幼・小・中を一貫教育にできるならば、適正規模校を保てるのではないか。
- ・天城学区では、小学校に隣接して幼稚園・中学校を設けてほしい。小学校の

再編成について、いろいろなうわさが飛んでいる。

- ・ 地区懇談会において、児童数などの資料を提示して、みんなに理解してもらいたい。
- ・ 学校の再編成について、不安が広がっている。月ヶ瀬幼稚園でのアンケートの実施が不安を増大させた。
- ・ 当局としても地域住民を差し置いてものごとを決めることはないことは表明済である。逆に学校統合や再編成は、早くしてほしいという意見がある。学校再編成は、住民も気になっている。情報を知らないから不安になる。
- ・ 参事が説明したものを父兄に提示すればすべてがわかるのではないか。
- ・ しゃくなげ保育園・月ヶ瀬小学校・月ヶ瀬幼稚園は、同じ敷地内にあるので、ほんわかした雰囲気がある。
- ・ 中伊豆地区の再編成は、まずは、大東小からという雰囲気がある。八岳小については、地域住民に守られている感じがする。もちろん、地域の小学校の子どもたちを育てていこうという気持ちが大切であるが、伊豆市という広い視野をもって地域に情報を知らせ、考えてもらいたい。
- ・ 自分の父母がかつて通った小学校も分校が本校に統合された。小学校の統合は、今までの歴史の流れの中で人口が減少することにより行われてきた。今もその時期に来ている。
- ・ 家庭的な雰囲気の中での学習は、メリットではないというショック。学校の適正規模と将来の児童生徒数を勘案した場合に厳しい現実と直面するがメリットではないことを承知の上で、早く地域に行き説明すべきある。
- ・ 8月から12月までに審議して、1月に答申するという日程の中で本当に間に合うのかという認識がある。  
第一段 複式学級の解消  
第二段 学校統廃合  
第三段 モデルのひとつとして、小中学校一貫教育を模索する  
小中一貫教育においては、教師にとっても今までの教育とは違うエネルギーが必要となる。
- ・ 市民との話し合いにおいては、実情報告により実態をきちんとつかんでもらう。
- ・ 「学校再編成を語る会」においては、4つの地域に出向くのか、それとも伊豆市内で一ヶ所で済ませるのかを確認したい。
- ・ 適正規模が学校教育の質を保っていくということをわかってもらう努力をつづけていく。
- ・ 適正規模にできない事情がある地域とやればできるが、それをしないという地域があるが、それはそう、これはこうでは通らないのではないか。

- ・松崎小学校は、3校が統合されたが、子どもに感想を聞いたときに友だちができてうれしいという答えが返ってきた。この答えがあれば親も安心する。
- ・交流を深めていくことにより、大勢になると楽しいという経験を積み重ねていく。
- ・伊豆市ならでは構想、学校の再配置を提案していけばいいのではないか。

#### 会長

参事が説明した資料を地域住民に説明してほしい。

- ・教育審議会として統一見解をもつのか。
- ・月小の運動会は、参加者の半分以上は学校に直接関係のない地域住民が来ているので、もし、月小の統合が出た場合には、地域住民として反対意見が出るのが目に見えている。
- ・小中一貫教育には、あやうい点があり、その点をはっきりさせていく必要がある。たとえば、小中合同で部活動を行う場合など子どもの発達過程の違いなどから無理な面があるのではないか。

また、小中一貫教育の実施においては、どこかの地区を先行させることができるのか、たとえば、土肥地区で先行実施して、そこでの様子を見て次の実践地域を検討していけばいいのではないか。

そのためには、先進地域の視察、資料収集をかかすことができない。

#### 教育長

今次の教育振興審議会の使命は、適正規模と適正配置について答申を出すことである。

小中一貫教育は、今日初めて出たことであり、「小中一貫教育するから統合しましょう」では困る。今回、新聞に出た土肥高等学校を絡めた一貫教育とは、土肥高に中学校を新設するものであり、全く違うことである。

#### 事務局

「学校再編成を語る会」の開催日程（案）について

中伊豆地区 11月13日(木)

湯ヶ島地区 11月14日(金)

修善寺地区 11月17日(月)

土肥地区 11月18日(火)

以上、計画案を提示したが、中伊豆地区は大見小保護者会議と重なるので、変更する。詳しい日程については、事務局で再確認を行ない決定する。

#### 事務局長

第1・2回の会議録より適正規模について、ある程度にまとめた資料について説明した。

学校再編成については、まだまだ、議論が必要であると考えている。

地域の人たちの意見を聞きたい。

修善寺地区については、単学級ながらそれぞれ4校の存続が見込まれる。

修東小については、鮎見橋の完成により修南小に安全に通学できる通学路が確保されている。など、具体的なテーマを与えてことを考えている。

- ・「語る会」においては、学校再編成において（教育振興審議会において）統一見解が出ていないことをはっきり説明してもらいたい。
- ・大平柿木地区の公用車の運行は、スクールバスなのかという質問あり。  
（事務局より過疎バスの運行について説明する）
- ・通学距離が遠くなることにより不安が生ずる。その対策として、学童保育などを実施することは可能なのか。  
（事務局より学童保育について説明する）

会長

- 「学校再編成を語る会」は4地区で開催する。  
地域住民の忌憚のない意見を聞きたい。